



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラク：石油事情（ナーシリーヤ製油所建設）

（4月15日付 AFP 通信）

4月15日付 AFP 通信は、英国のエネルギー分野のエンジニアリング企業 Foster Wheeler 社が、ナーシリーヤ油田近くでの製油所建設について、イラク政府と契約したと報道した。概要は以下の通り。

1. イラク政府は英国 Foster Wheeler 社とイラク最大の製油所を建設する契約を締結した。石油省の交渉担当代表 Abdulhassan Al-Attabi 氏は、イラク南部・ナーシリーヤ近郊に 128 百万ドル規模の製油所が建設される予定であり、30 万 b/d の原油を処理すると共に 1 万人の雇用を創出すると述べた。
2. 同製油所は軽質の石油製品であるガソリン・ディーゼルなどを生産し、輸出ラインにも接続される。2 年以内に完成することが期待されている。
3. 同製油所は 30 万 b/d 規模の Al-Nasiriyah Al - Kabir 油田、13 万 b/d 規模の Al-Gharraf 油田及び 11 万 b/d 規模と推定される Al-Rafidein 油田近くに立地する。
4. イラクは 1150 億バレルの原油埋蔵量が確認され、世界で 3 位である。しかしながら独裁化の経済制裁や戦禍により開発されていないところが多い。2 月末での原油生産レベルは 231 万 b/d であった。

【補足情報】

イラクの石油をめぐる動き（2009年1月1日以降）

2009-01-05(月) イラク内閣は、ナーセリーヤ油田に日量 30 万バレル規模の製油所を建設する事を英国のフォスターウィラー社に受注させる事に合意。同県議会によれば、建設コストは 1.28 億ドルで、施工期間は 21 カ月、今年前半の着工の見通し。

2009-01-08(木) イラク石油マーケティング機構（State Oil Marketing Organization）のファラーフ・アーメリー社長は、石油価格の急激な下落にも拘らず同国の石油備蓄は昨年 30%増加し、約 600 億ドルに達したと述べた。昨年のイラクの 1 日当たりの平均石油輸出量は 185 万バレルで、2007 年より 13.5%の増加。同社長は、今月の 1 日当たりの平均輸出量は 200 万バレルに達すると予測。

2009-01-21(水) イラク石油省は、イタリアの Eni SpA、スペインの Repsol、日本の新日本石油から受けた、南部ジーカール（Dhi Qar）県のナーシリーヤ（Nasiriyah）油田開発のオファーを検討している。

- 2009-01-25(日) イラク石油省は、2008年12月の石油輸出量は562万Bだったと発表。11月から340万B増加。434万Bはペルシャ湾経由、トルコ経由128万B。12月の石油収入は19億4300万ドル。
- 2009-01-26(月) イラク現地紙は、首相府報道官が、原油価格の下落を受け、今年度予算の2度目の下方修正を発表したと報道。当初の2009年予算は800億ドルだったが、昨年11月に670億ドルに下方修正され、今回620億ドルになった。
- 2009-02-07(土) イラクの石油・ガス産業の開発に関するバグダードでのシンポジウムにおいてシャハリストーニ石油相は、OPEC加盟国が3月の会議で最低でも1バレル70ドルまで価格を引き上げるために石油生産量を削減することになると発言。
- 2009-02-2(土) 駐シリア・イラク大使は、イラクは、①キルクーク油田からシリアの港までのパイプライン建設、②シリア国境付近でのカガス田開発について、シリアと協議していると述べた。
- 2009-03-12(木) 欧州歴訪中のイラク・クルディスタン地域のバラザーニー大統領は、英国の王立国際問題研究所(Chatham House)のフォーラムで、現在のイラク政府の石油政策は失敗だと述べた。また、クルディスタン地域は、現在日量10万バレルの石油を生産しており、今年末までにこれを20万バレルにまで増大する事が可能と述べた。同大統領は、伊国、独国を訪問した後、英国を訪問し、欧州歴訪を終えた。
- 2009-03-14(土) 日経新聞は、イラクのシャハリストーニ石油相が同紙に対して、新日本石油等日本企業3社が提案した南部の油田(ジーカール県のナーセリーヤ油田)開発計画について、「日本企業の参加を広く求めたい」と述べた旨報じた。
- 2009-03-23(月) トルコのギュル大統領がイラクを訪問。トルコの大統領がイラクを訪問するのは33年ぶり。イラクのタラバーニー大統領との会談では、エネルギー分野での協力等が協議された。トルコはクルディスタンでの石油探鉱権を獲得し、キルクークから自国へのパイプラインの敷設を目指している。またクルド労働者党(PKK)による反政府武装闘争に悩まされているギュル大統領は、イラクのクルド人(タラバーニー大統領もその1人)には同党のメンバーをイラクから追放する責任があると述べた。
- 2009-03-25(水) シリアのムアッリム外相が3年ぶりにイラクを公式訪問(2日間)。マリーキ首相、ジバーリ外相と各々会談。治安問題、水問題等について協議。ジバーリ外相は両国間の治安協力面での大きな進展を称賛した。両国外相による共同記者会見でムアッリム外相は、シリアを通過する石油パイプラインの再開についてマリーキ首相と会談したことを明らかにした。同外相によると、この件でイラク側は真剣であるが、ロシアの施工企業側に問題があるという。
- 2009-04-10(金) イラクのマリーキー首相がモスクワを訪問し、ロシアのプーチン首相と会談。両国は、前フセイン政権時代に両国間で締結された石油関係契約の復活に合意。ロシアの石油大手LUKOIL社は1996年に、イラク南部の西クルナ(West Qurna)油田の開発協定(37億ドル)に署名していたが、米軍によるイラク侵攻数ヵ月前の2002年に故フセイン大統領は同社が契約事項を守っていないとして、同契約を破棄。同社は、現政権がこうした前フセイン政権時代の契約を尊重するよう働き掛けていた。

---

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799